



鹿児島県青少年赤十字 賛助奉仕団会報

さくらじま

第15号

青少年赤十字賛助奉仕団信条

1. 青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する。
2. 赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する。
3. 志を同じくする人々と手を取りあい、研鑽に努める。

発行者

鹿児島県青少年赤十字賛助奉仕団

発行

令和8年3月1日



今年度の活動をふりかえる

鹿児島県青少年赤十字賛助奉仕団

委員長 出水澤 孝洋

全国賛助奉仕団協議会総会で、「青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する」と同時に、「赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する」の実践が数多く報告されました。

東日本大震災に際して、鹿児島県の先達たちが取り組まれた「資金や賛同者を募り、畑を耕し、芋を植え・育て・収穫し、その芋を被

災地へ届ける」の活動を彷彿させる数々の実践でした。

ところで、赤十字奉仕団鹿児島県支部には、地域奉仕団や青年奉仕団、特殊奉仕団があり、特殊奉仕団の一つとして青少年赤十字賛助奉仕団があります。

南北600キロの鹿児島県ですが、それぞれの地に赤十字奉仕団の方々がいらつしゃいます。その



青少年赤十字活動が育む子供たちの心

鹿児島県教育庁義務教育課

指導主事 濱川 達一

小学生の頃、教室に貼ってあったアンリー・デュナンの肖像画を今でも鮮明に覚えています。青少年赤十字の活動については、学級や全校集会の場で説明があったと思うのですが、当時の記憶はおぼろげです。ましてや、「気づき」「考え」「実行する」という言葉の意味を十分に理解していたとは思えません。しかし、先生から褒められたり叱られたりした場面を思い返すと、その根底には、私の中にその姿勢があったかどうかが関係していたのかもしれないと思います。

相手に気づくこと、自分なりに考えてみることに、そして小さくても行動に移すこと。これらは今振り返れば、私の成長を支えた大切な視点でした。

人として大切な何かを教えることもらった経験は心に残っています。不思議なものですが、子供の心に残るその「何か」は、大人になっても静かに生き続けるのだと感じます。

最近のニュースでは、様々な問題が連日のように報道されています。他者の立場や考えを受け入れられず、自分のことだけを優先す

方々と連携して青少年赤十字の充実や赤十字思想の普及に努めることを先達たちは教えてくたさいました。九州ブロック研修交流会で、「善意は善意を呼んで」の朗読劇をしました。子どもたちの活動に感動して、人道の輪を拡げていった大人たちの取組を朗詠しました。

このとき、「草を見ると子どもたちの活動を思い出します。」と、研修の合間に会場の草を取っていた同僚を思い出しました。先達たちに学び、子どもたちに学び、そして、関係機関の方々のご指導・ご鞭撻を仰ぎながら、「できる時に・できる所で・できることを」を実践していきたいと思えます。

る行動から生じているように見える出来事も少なくありません。そのような今だからこそ、赤十字活動の「人道」の精神は、ますます重要な価値をもつてくるのではないのでしょうか。

青少年赤十字の活動は、まさにその精神を子供たちの日常に根づかせる取組です。「気づき」「考え」「実行する」という態度は、誰かのために手を差し伸べる心を育み、学校や地域の心を温かくする源になります。子供たちが、互いを思いやりながら自分にできることを見つけ、未来へと踏み出していくことを切に願います。青少年赤十字の精神が、次代を担う子供たちの中でより豊かに育まれていくことを心から期待しています。

校長・教頭・指導主事等対象
青少年赤十字研修会に参加して

**思いやりでつながる
 温かい学校づくり**

鹿児島市立武小学校長 西國原 学

本校は、60年以上にわたり青少年赤十字に登録し、豊かな歴史と伝統を誇っています。この活動は、児童の「思いやりの心」を育む重要な柱であり、特色ある教育活動の一つです。この理念は学校経営にも深く根づいており、日々の教育実践に取り組んでいます。「思いやり」とは、単に「思う」だけではなく、「行動する」ことで初めて本物となります。児童が「気づき・考え・行動する」力を身に付けることを重視し、私たちは実践的な学びを積み重ねてきました。

研修会では、講義を通して理念の本質を再確認し、事例発表で各校の創意工夫に学び、情報交換で現場ならではのヒントを得ることができました。同じ志を持つ先生方との交流は刺激的であり、有意義な時間となりました。

本校の歩みを振り返りつつ、今後の教育活動にさらに磨きをかけ、児童の「思いやりの心」を育む温かい学校づくりを一層推進してまいります。

**青少年赤十字活動を活かした
 学校経営**

顧問 針原 正弘

十五名の校長・教頭・指導主事の先生方と賛助奉仕団五名を含む十名のスタッフの計二十五名で今年度の研修会



は行われました。大きな変更点は、昨年度まで土曜日一日の研修会が、金曜日の午後だけとなったことです。

研修時間が少なくなったことで、参加された方々に満足できる内容となるか心配していましたが、これまでと変わらぬ成果を上げることができました。

特に、小中学校の二校の発表は、青少年赤十字の人道の精神を経営の柱に置いた素晴らしい内容でした。発表を聞いて、参考になったとの感想が多数寄せられました。

また、校種別の情報交換を五十分開設けましたが、役に立ったとの感想が多く、時間をもっと伸ばしてほしいとの要望もありました。

時間の制約がある中でも、多くのことを学べた研修会となりました。青少年赤十字の人道の精神が、参加された先生方を起点として一層育まれていくことを期待します。

**懐かしの琉球
 第六ブロック交流研修会に参加して**

研修推進部 中村 浩一

初めて沖縄に行ったのは大学受験の時、その後四年間を沖縄県民として過ごした。大学一年当時通った首里キャンパスには沖縄県民のシンボル、アイデンティティの源である首里城が、二〇一九年の消失から力強い復活を果たし、本年十月には正殿の美しい姿を見る事ができるようになった。今回の参加は個人的な思い入れが強かったが、改めて研修を通して琉球王国の歴史に触れ、首里城について学ぶことができたのは大変貴重な機会となった。

この交流研修会のメインの一つは各県の活動報告と夜の交流会である。以下、印象に残った取組を紹介したい。

アメリカ赤十字ユースとの交流、団員研修や研修視察の実施、行事ごとの奉仕団新聞の発行、「VS大明神」(トレス着用キャラクター)の創作、三泊四日の中学トレス、離島でのトレス・指導者講習会の実施、プレゼンテーション資料の事前作成、学校での防災学習への協力、幼保登録式の資料作成、など

夜の交流会の楽しさについても書き留めておきたいが、「百聞は一見にしかず」、来年の長崎大会(十一月五日・六日)に参加して、各県奉仕団のつながりとエネルギーを体感してみたいかがでしようか。



【100文字作文支部長賞の紹介】
やさしいリレー

鹿児島市立武小学校

四年 伊地知 玲奈

友達が転んだ。

ひざからたくさん血が出ていた。だれも気づいていなかったけど、わたしは気づいた。そして一緒に保健室についていった。わたしが転んだ時にその子が助けてくれた。やさしさのバトンがつながった。

心も磨く十五分間

いちき串木野市立市来中学校

二年 時田 珠乃

朝の十五分間のVS活動で、体育館裏の落ち葉掃きをしていた。寒くても、日に日に綺麗になっていくのを見ると心が温かくなることに気づいた。この時間を有効に使ってこれからも意識を高めて学校を磨きあげたい。

笑顔を描く

クレヨンプロジェクト

鹿児島情報高等学校

二年 今吉 優月

昨年度、カンボジアを訪問した際に教育を受けられない子供達を目的に当たりにした。そこで現地で重宝されているクレヨンを作り、届けることにし、今、着々と進めている。一本のクレヨンが誰かを笑顔にすることを願っている。

令和7年度 賛助奉仕団事業報告

Table with 4 columns: 月 (Month), 事業内容 (Activity Content), 開催日等 (Date/Time), 参加状況等 (Participation Status). Rows include various activities like 'イトスギ' tree planting, staff meetings, and training sessions throughout the year.

※太字は、青少年赤十字賛助奉仕団の事業。

夏季トレセンに参加して

賛助奉仕団行事支援部 草留 久之
「全校種でのトレセンはコロナ禍以来です...」
今年の特徴は、小中学校生に加え高校生も合同の参加となったこと...

事務局長による事後アンケート等から、印象に残る活動は「室内FW」「防災すごろく...」
今年高校生が小中児童生徒へのプログラム指導を行いました...



賛助奉仕団への思い

あの頃のように

賛助奉仕団員 有村 博文

小学生の頃、青少年赤十字に加盟していた母校の谷山小学校では、毎朝ボランティアの曲が流れ、各教室には、アンリー・デュナンの肖像画が掲げてあった。あの頃は、ボランティアの曲がかかると、児童がそれぞれに自分でできるボランティアを見つけて、自発的に行動していた。また、当時は、アンリー・デュナンが第一回ノーベル平和賞を受賞した人物とは知らなかったが、立派な顕彰を蓄えた彼の顔は、今でも脳裏に焼き付いて離れない。

あれから約半世紀、令和七年三月に小学校での勤務を終え、この度、賛助奉仕団に加入させていた。これからは、賛助奉仕団員の諸先輩方に学びながら、小学生の頃のように、自発的に行動していきたいと思う。

令和7年度 賛助奉仕団組織表

Organizational chart table for the 2025 fiscal year. Columns include 役・部等 (Position/Department) and 氏名等 (Names). Departments listed include 顧問 (Advisor), 委員長 (Chairman), 副委員長 (Vice-Chairman), 総務部 (General Affairs), 行事支援部 (Event Support), 研修推進部 (Training Promotion), and 親善部 (Public Relations).

「出来るときに、出来ることを」

賛助奉仕団員 元野 弘

私は、これまで青少年赤十字加盟校に勤務したこともあり、生徒たちが、「気づき・考え・実行する」を合言葉に様々なボランティア活動を実践していることは知っていましたが、直接関わることはなく、具体的な活動に参加したことはありませんでした。

今回、現職中に大変お世話になった上司から青少年赤十字賛助奉仕団を紹介され、こんな私でも出来ることがあるのではないかと思いに至りました。

今のところ、九月の賛助奉仕団の研修会に参加しただけで、実際の活動には参加できていませんが、先輩方のご指導をいただきながら、少しでもお役に立てるよう「出来るときに、出来ることを」やっていけたらと思っています。ですので、どうぞよろしく願います。

登録式に寄せる思い

小さな優しさから広がる未来

鹿児島市立桜丘東小学校

校長 西村 かおり

本校では、子供たちが思いやりの心や協力することの大切さを再認識する節目として、全校で登録式を実施しています。奉仕の誓いを立てることで、自分の行動が誰かの笑顔につながることを実感する機会でもあります。

困っている人に寄り添う優しさ、仲間と協力して課題を解決する力は、未来を生きる子供たちにとって大切な資質です。こうした力は、日常の小さな実践から育まれます。思いやりの言葉、環境を守る行動、災害時に助け合う姿勢。その一歩一歩が社会をよりよくします。この登録式をきっかけに一人一人が小さな優しさを積み重ね、仲間とともに成長し、希望に満ちた社会を築いていくことを心から願っています。

誓いとともに歩む70年の伝統

南さつま市立加世田中学校

校長 山下 博文

本校で初めて青少年赤十字登録式に参加し、生徒たちが真剣な表情で「誓いのことば」を述べる姿に深い感動を覚えました。本校には70年を超える歴史と伝統があり、生徒集会などで誓いを全校で復唱し、その思いを共有してきました。「心身を強健にし、人のためと郷土社会のため、国家と世界のためにつくす」という言葉には、利他の精神と広い視野が込められています。

そして、青少年赤十字の態度目標である「気づき・考え・実行する」は、学校生活の中でも生かされており、日々の成長を支える指針です。これからの理念を胸に、郷土や世界に貢献できる生徒を育てたいと強く願っています。

登録式の意義

賛助奉仕団 福留 隆二

登録式の講話の中で、校長の経営方針と青少年赤十字のねらいの関連付けをするのはとても大切な視点です。ある学校の校長室で掲示してあるグラウンドデザインを眺めているとき、一校一改善の「5あ活動を5あ自慢」の中に「歩き方」というキーワードを見つけました。校長先生にお尋ねすると、「まわりを確認せずに、急に走り回る子が多くて心配なのです。」という回答がありました。これは青少年赤十字の「健康・安全」の実践目標の分野に入るので、講話の内容に加え、子どもたちに伝えることにしました。

賛助奉仕団の役割は指導者協議会主催の事業の支援だけでなく、見えないうちで学校経営の支援もしなければならぬと感じた瞬間でした。今回は校長室で見つけることができましたが、登録式の依頼を受け、学校のホームページで情報収集をしながら気づくこともありました。

登録式は全校児童生徒の前で青少年赤十字を語れる貴重な機会です。子どもたちが青少年赤十字活動は身近なものだと感じられるように、話し方をできるだけ工夫していきたいです。

令和7年度 青少年赤十字の加盟状況について

1 令和7年度 青少年赤十字加盟校(園)

保育園 (24)	認定こども園 (17)	幼稚園 (11)
小学校 (233)	中学校 (95)	義務教育学校 (7)
高等学校 (20)	特別支援学校 (3)	合計 410校

2 令和7年度 新規加盟校(園)

小学校	
[高山小(肝付町)、田検小(宇検村)]	
合計	2校



のだと感じられるように、話し方をできるだけ工夫していきたいです。

編集後記

賛助奉仕団のV.S活動で資材庫の整理をしました。トレセンで使う提示資料や配付資料、筆記用具等を整理する中で、これまでの歴史にふれるとともに今後の活動の充実を願うことでした。

本県の賛助奉仕団員は五十四名本年度は七名の新加入がありました。働き方が多様になる中で、できる時にできる人が活動を支え合って、青少年赤十字の活動の充実に寄与できればと思います。子どもたちの笑顔は元気の源でもあります。

最後になりましたが、ご多様な中に玉稿を寄せてくださいました皆様

に心から感謝申し上げます。
(研修推進部 諏訪原)

